

東罐高山株式会社の事業適応計画のポイント

令和5年8月28日

- 「2030年までにCO2排出量50%削減（2019年度比）」を目標に掲げ、生産活動において消費されるエネルギーを再エネに置き換えしCO2排出量を減少し環境負荷を低減・環境価値を付加した製品造りを目指す。
- 本計画では、工場屋根に自家消費型の太陽光発電設備を設置し、当該設備による電力を自社内で使用することで、外部からの電力購入を抑え、再エネ利用により炭素生産性を向上させることを目標とする。また、敷地内には蓄電池を併設し余剰発電を吸収することで、エネルギーの合理的な使用に資する計画とする。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

2024年1月 ～ 2025年3月

2. 生産性向上目標

炭素生産性を18.5%向上させる。

3. 前向きな取り組みの内容

本社工場屋根に太陽光パネルと敷地内に蓄電池を設置し、全量自家消費する。蓄電池を併設し余剰発電の吸収及び夜間電力の活用などリソースを最適に運用し、エネルギー調達コストの低減とCo2排出量を削減し、炭素生産性を18.5%向上する。

4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

<取組の内容イメージ>



<太陽光併設蓄電池を導入する工場外観>



<太陽光パネル・蓄電池設置計画>